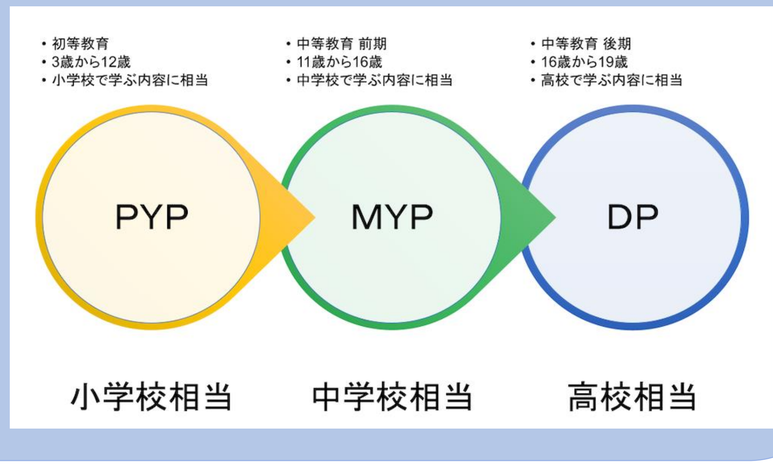
国際学Ⅱ　日本の教育のグローバル化
-日本国内における国際バカロレアはどのような課題を抱えているのか？-

202211645 国際総合学類1年 魚山果穂奈

1.国際バカロレアとは

- 国際バカロレア（International Baccalaureate,以下IB）とは、世界146か国以上で展開されている3~19歳までの総合的な教育プログラムである。
- 世界統一試験を作り、世界共通の大学入学資格・明確な成績証明を作ることを目指した。
- IBの最終課程にあたるDP（ディプロマ・プログラム）では、２年間のプログラムを履修し、最終試験を経て一定のスコアを取ると、世界の2500校以上の大学の入学審査を受けることができるため、**大学パスポート**と呼ばれる。
- 日本政府は「成長戦略2021」において、国内における国際バカロレア認定校等を2022年度までに**200校以上**にすることを目標とした(“日本におけるIB教育”)。

写真1 IBの教育課程



2. 研究課題の社会的重要性

「グローバル人材育成推進会議」（首相官邸、2011年）
要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー
(グローバル人材育成推進会議)

政府は、**グローバル人材育成**のためには従来の知識詰め込み型では困難であり、具体的解決方法としてIB教育を挙げた。これは、IBが掲げる教育理念である**「全人教育」**（学力重視だけではなく、人間力を育むための知識と教養を生涯かけて学ぶこ）がグローバル人材育成には必要だと判断した結果だと評価できる。つまり、**国内におけるIBの現状と課題を分析することは、日本の教育のグローバル化を達成する上で重要なことだといえる。**

3. 日本国内におけるIBの現状

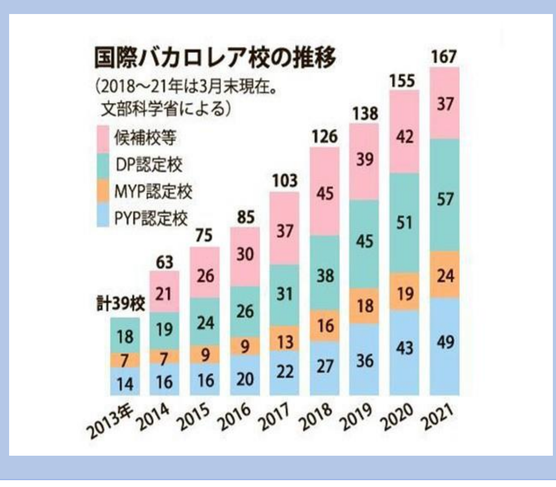
- 日本語DPの導入

　従来は英仏スペインの3か国語のみがDPでは公用語として使用されていたが、日本語でカリキュラムを進める日本語DPの導入によって**日本語で大部分を学ぶこと**が可能になった。

*「教育や文化は、自国の文脈のなかで理解すべきもの。その上で異文化があることを知り、それを受け入れていく。自国のアイデンティティに根ざした多様な価値観の獲得こそが、**グローバル教育の本質**ではないか。」*(坪谷ニュウエル郁子 58)

- 日本国内における国際バカロレア認定校は167校のみに留まっている。これは、200校以上を目指した「成長戦略2021」における**目標数値に届いていない**といえる。

写真2 IB認定校の推移(2018~2021)



4. 日本国内におけるIBの課題①
国内大学の受け入れ体制が十分とは言えない

国際バカロレアを活用した大学入試は62大学で実施されている（令和元年12月）
「これまで日本におけるIB普及の壁となっていた「大学入試におけるIB資格の活用」の点については、解決の方向へと向かっている」(石田勝紀 159)

実際の国際バカロレア入試では**少人数**の合格のみ

（例）筑波大学では2022年度入試において、34名の受験者の内、合格者は9人のみ。(筑波大学 5)
→現在の日本国内大学のIB生の受け入れ体制は十分とはいえない

写真3 筑波大学2022年度IB入試受験者データ

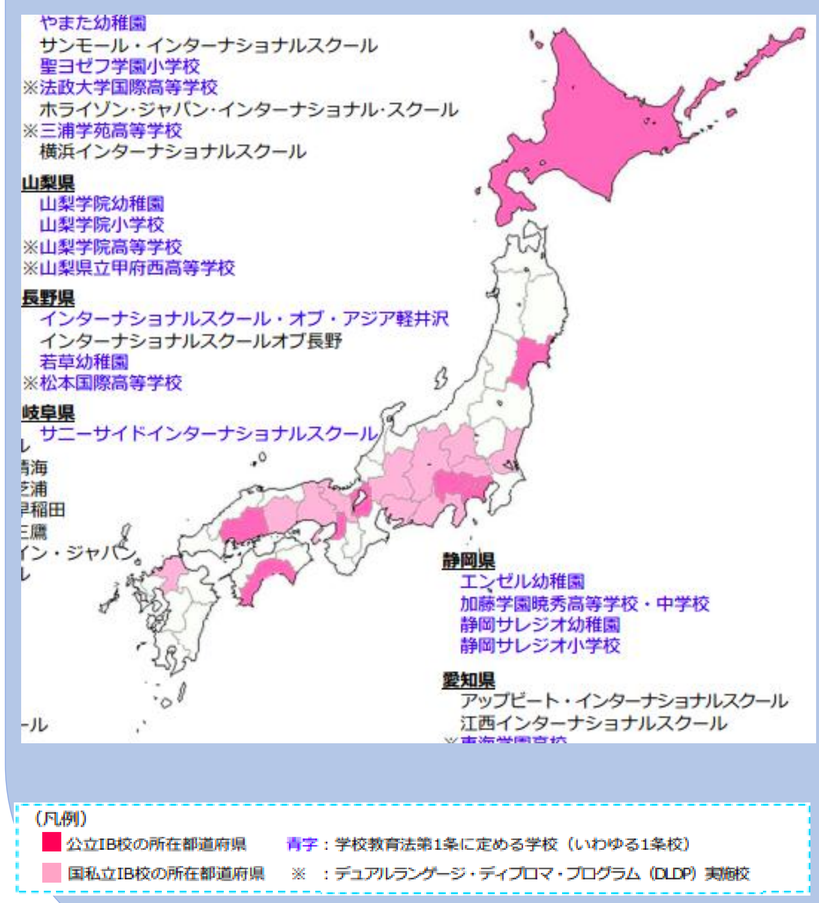
国際バカロレア特別入試(11月募集4月入学)

学群・学類 ＼ 事項		志願者数	合格者数	入学者数
人文・文化学群	人文学類	0	0	0
	比較文化学類	3	1	1
	日本語・日本文化学類	0	0	0
社会・国際学群	社会学類	4	1	0
	国際総合学類	2	1	1
人間学群	教育学類	2	1	0
	心理学類	3	0	0
	障害科学類	0	0	0
生命環境学群	生物学類	2	0	0
	生物資源学類	0	0	0
	地球学類	0	0	0
理工学群	数学類	1	1	0
	物理学類	0	0	0
	化学類	0	0	0
	応用理工学類	1	1	1
	工学システム学類	4	0	0
	社会工学類	1	0	0
情報学群	情報科学類	0	0	0
	情報メディア創成学類	2	0	0
	知識情報・図書館学類	0	0	0
医学群	医学類	5	0	0
	看護学類	0	0	0
	医療科学類	0	0	0
体育専門学群		2	1	0
芸術専門学群		2	2	1
合　計		34	9	4

合　計　34　9　4

5. 日本国内におけるIBの課題②
日本国内における教育格差

写真4 国際バカロレア認定校一覧



- IB認定校の多くが**首都圏**に集中している
  - 九州・東北地方の県には認定校が少ない
- **公立校**への広がりは限定的
  - 認定校93校の内、一条校は51校に留まっている

教育の機会均等化のためには

IB認定校を**地方・公立校**に拡大する必要がある

5.結論

国内におけるIBは、グローバル人材育成のための具体的方法論として、日本語DPの導入などの政府の働きかけによって大きく広がりを見せていた。一方、①国内大学の受け入れ体制の不十分さ、②認定校が地方・公立校に広がりを見せていないこと、などの困難を国内のIBは抱えていることがいえる。これらの課題は、**政府主導の教育改革の限界**を表しており、政府だけではなく大学側の入試制度の見直しや地方自治体との連携など、**異なる機関と協力して取り組むべき課題**だと私は考える。

6.参考文献

石田勝紀. “日本における国際バカロレア校推進の背景と教員養成の問題～大学における国際バカロレア教員養成に着目して～.” *東京大学大学院教育学研究科紀要第56巻*, 2016, pp. 157-166. *https://cir.nii.ac.jp/crid/1390290699579364864*.
グローバル人材育成推進会議. “グローバル人材育成推進会議 中間まとめ.” 文部科学省, 22 6 2011, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/46/siryo/__icsFiles/afieldfile/2011/08/09/1309212_07_1.pdf. Accessed 26 7 2022.
坪谷ニュウエル郁子. *世界で生きるチカラ*. ダイヤモンド社, 2014.
文部科学省大臣官房国際課. “国際バカロレア・ディプロマ・プログラムと学習指導要領との対応関係について.” *文部科学省*, 28 4 2021, https://www.mext.go.jp/content/20210428-mxt_kyoiku01-00014639_15.pdf. Accessed 26 7 2022.
写真1“: 3分でわかる！国際バカロレア（IB）とはどのような学び方でしょうか？合格率と平均点は？.” インターナショナルスクールタイムズ, 8 8 2016, http://istimes.net/articles/667. Accessed 26 7 2022.
写真2:“「国際バカロレア」のいま 認定校、2022年度までに200校超目標 日本語DP導入で関心高まる.” 20 8 2021, https://www.asahi.com/edua/article/14420275?p=2. Accessed 26 7 2022.
写真3:筑波大学. “令和4年度入学試験実施結果.” https://p1.ssl-dl.jp/dl/42742-5eef160e6ead61a83e726154cfa0a906. Accessed 26 7 2022.
写真4:“日本におけるIB教育.” 文部科学省IB教育推進コンソーシアム, https://ibconsortium.mext.go.jp/ib-japan/. Accessed 26 7 2022.